

北海道帯広市内の旧国鉄の愛国駅と幸福駅が恋愛小説の舞台になる。「小説新潮」（新潮社）12月号の「恋人の聖地」特集企画で全国115カ所の中から短編の1作に描かれることになった。「愛の国から幸福へ」のシリーズで一大ブームとなり来年で丸40年。地元の帯広市は「再び脚光を浴び、十勝の観光振興につながる」と期待する。

小説を執筆するのは原

## 「愛の国から幸福へ」小説に

### 恋愛テーマ 帯広の2駅舞台

田マハさん。日本ラブストリー大賞受賞作「カブーを待ちわびて」で本格デビューし、今年「楽園のカンヴァス」で山本周五郎賞を受賞した人気作家だ。8月末に現地を訪れ、両駅周辺のほか、中札内美術村（中札内村）などを熱心に取材して回ったという。

旧国鉄広尾線は198



7年に廃線となり、旧愛国駅は交通記念館、旧幸福駅は鉄道公園として整

備された旧幸福駅は現在でも十勝の観光名所（帯広市）

備されている。両駅は2008年夏、特定非営利活動法人（NPO法人）地域活性化支援センター（静岡市）から「恋人の聖地」に認定された。

新潮社は恋人の聖地をテーマに柴門ふみさん、三浦しをんさんら有名女性作家7人による競作を企画。公募に応じた全国約30の聖地から創作意欲やテーマなどに従って作家自身がそれぞれ舞台を選んだ。

（釧路）